

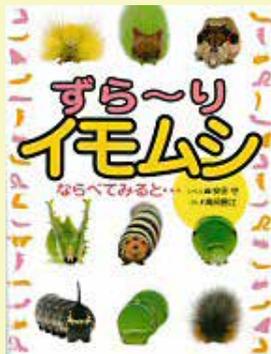
【緑地を楽しむ本】

『ずら〜り イモムシ ならべてみると…』

しゃしん 安田守

ぶん 高岡昌江

アリス館



ウワー!! 1ページ目を開けた時の、ものすごい迫力! 虫が苦手な人は、このページを見た途端に本を投げてしまうかもしれませんね。

でもでも、よく見てください。ずらーっとならんだ44種類の、どれも個性的なイモムシたち。

一つとして似ているものはありません。すましているイモムシ、ぎょろっと目玉が目立つイモムシ、それに明るい毛を賑やかに広げているイモムシ…。どれもが「見て見て!」と自分を主張しているようです。この中のいくつかは、緑地でも見られるはずですが。以前緑地で育てていたヤママユももちろん、顔を見せています。

次のページからはイモムシ代表18匹に勢ぞろいしてもらって身体検査。まず頭とおしりとくらべっこ。頭とお

尻だけみると、どちらがどちらかわからないなんて。イモムシは脱皮を繰り返してどんどん大きくなり…さなぎに変身します。イモムシの時とは全然違う形と色。葉っぱにそっくりになったり地面に潜り込んだり。動けないさなぎの時期はひたすら目立たないようにしているのでしょう。でもその後、チョウやガになった彼らは、やっぱり個性的!

こんなにけばけばしくよそおったらすぐ鳥に見つかって食べられてしまうんじゃないの? と不思議ですが、実際にはうまくカモフラージュしているのでしょう。ヤママユのイモムシも体にクヌギの葉脈のような筋を持ち、すっかり葉っぱになりすましています。葉の間にいるとなかなか見つけられません。

虫の世界も楽しいよ、おいでよおいで、一緒に遊ぼう、と、虫の世界にいざなってくれる一冊です。

(小川)